

「さんま」の支出

- 家計調査結果（二人以上の世帯）より -



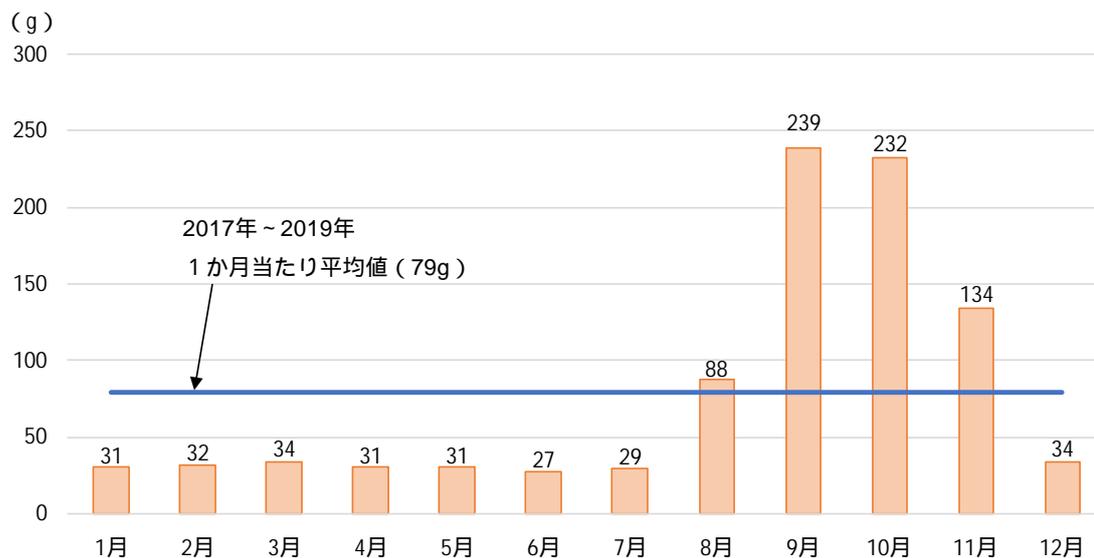
「味覚の秋」になり様々な食べ物が旬を迎えました。名前に「秋」を冠するものの代表として「秋刀魚（さんま）」がありますが、近年は環境の変化などが原因で不漁が続いており、今年7月に行われた初競りで落札されたものが、店頭で1尾5,980円もの値がついたことが話題になりました。今月は「さんま」の支出について、二人以上の世帯の結果を見てみましょう。

秋に購入のピークを迎える

「さんま」の1世帯当たりの購入数量を月別に見ると、8月から増加し始め、9月～10月にピークを迎えます。さんまは秋頃から産卵のため北海道の根室沖から太平洋側を南下していき、この時期が最も旬となり漁が最盛期を迎えますが、この時期を過ぎると流通量も少なくなるため、冬以降は購入数量も少なくなっています（図1）。



図1 「さんま」の1世帯当たり月別購入数量（2017年～2019年平均）

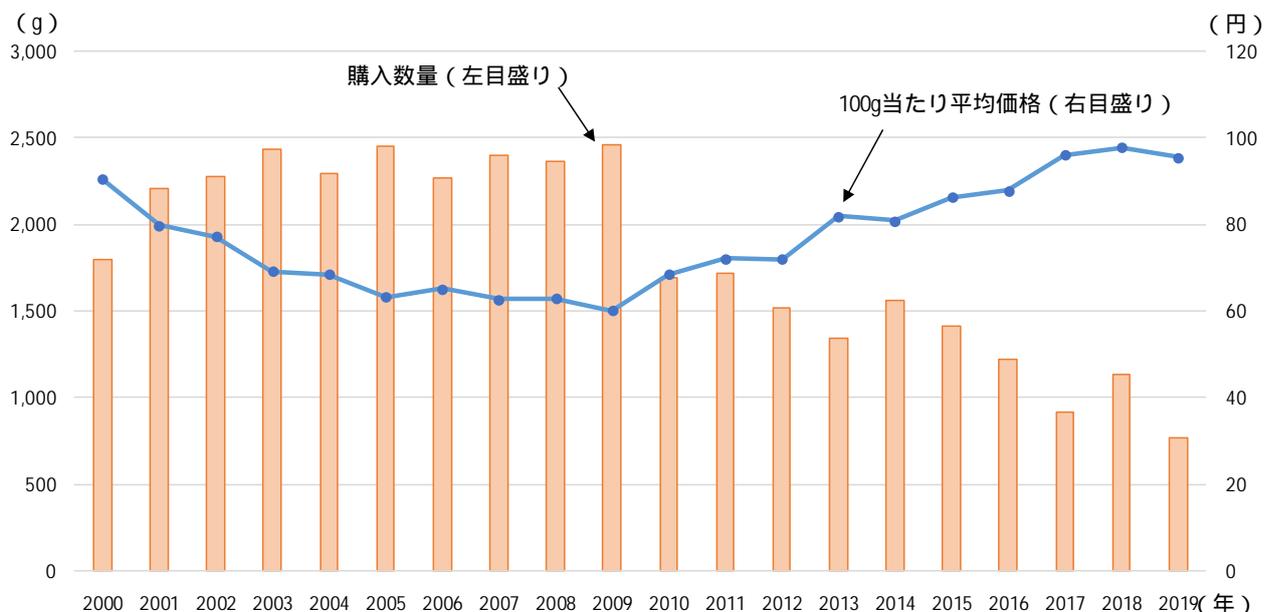


2010年以降購入数量は減少し、平均価格は上昇傾向

次に、1世帯当たりの「さんま」の年間購入数量を見ると、2014年、2018年と一時的に増加した年はあるものの、2010年以降は減少傾向が続いています。

一方で100g当たりの平均価格を見ると、購入数量が大きく減少した2010年以降上昇傾向にあり、不漁による価格高騰の影響が分かります（図2）。

図2 「さんま」の1世帯当たり年間購入数量及び100g当たり平均価格の推移（2000年～2019年）



支出金額及び購入数量ともに盛岡市が1位

最後に、「さんま」の1世帯当たり年間支出金額及び購入数量を都道府県庁所在市及び政令指定都市別に見ると、いずれも盛岡市が最も多くなっています。また、仙台市、秋田市など、東北地方の市が上位になっています（図3、4）。

図3 「さんま」の1世帯当たり年間支出金額の都道府県庁所在市及び政令指定都市別ランキング（2017年～2019年平均）



図4 「さんま」の1世帯当たり年間購入数量の都道府県庁所在市及び政令指定都市別ランキング（2017年～2019年平均）

